

2022

夕焼け姫 苗木定植・幼木管理マニュアル



愛知県農業総合試験場 園芸研究部

常緑果樹研究室

2022年3月17日

夕焼け姫の定植方法、その後の管理について

(1) 年間計画

大まかな年間の作業計画です。土づくり、定植時期と準備、定植の方法、施肥とかん水、防除、せん定方法に分けて詳しく解説していきます。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
生育状況				新梢の伸長			新梢の伸長		新梢の伸長			
施肥 ⇒P.4	(1年目)		1年目無施肥期間									
	(2-5年目)											
防除 ⇒P.5	(薬剤散布)											
	(育苗期のみ)											
	ジベレリン(花芽抑制)											
作業												

(2) 土づくりと植穴の準備

定植1~2か月前に土壌改良をします。その後、植え込みの穴掘り時に肥料を入れ、苗木を定植します。

ア. 化学性(酸度)の改善

カンキツ類が好む弱酸性(pH5.5-6.0)を目指します。pHを下げることは難しいので、資材の入れすぎには注意します。

- ・酸度測定方法 JAの土壌診断 土壌用酸度計
- ・pHを上げる資材 苦土石灰
- ・pHを下げる資材 ピートモス(未調整)

イ. 物理性(土のふかふかさ)の改善

土の掘り起こしと有機物の混ぜ込みを行います。今後根が伸びる範囲の土を掘り起こして柔らかくしておきます。特に、たい肥が未熟な場合は1~2か月前に入れて耕耘し成熟させます。

- ・物理性改良資材 たい肥、腐葉土、ピートモス
改植の場合は伐採した枝を砕いて入れることもできます。
- ・中耕の深さは約30~40cm

ウ. 肥料の準備

植えつけ時に必要な肥料を準備します。土壌診断の結果、過剰施用となる可能性があるため土壌の状態によっては不要となります。

- ・肥料 ようりん(P補給) 500g/樹
苦土石灰(Mg補給) 500g/樹
- ・微量元素 F・T・E 100g/樹

(3) 定植時期

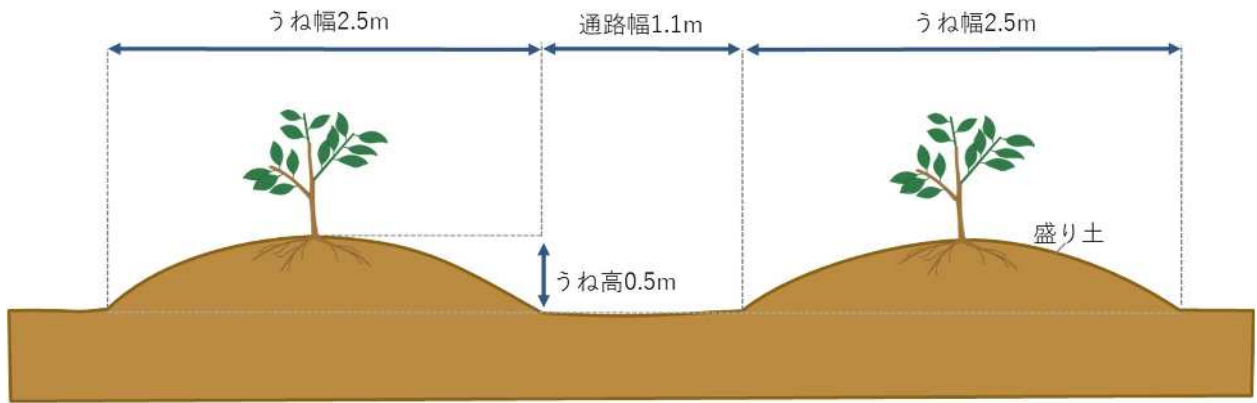
ア. 時期

3月~4月上旬(寒さが緩んでから発芽の前まで)

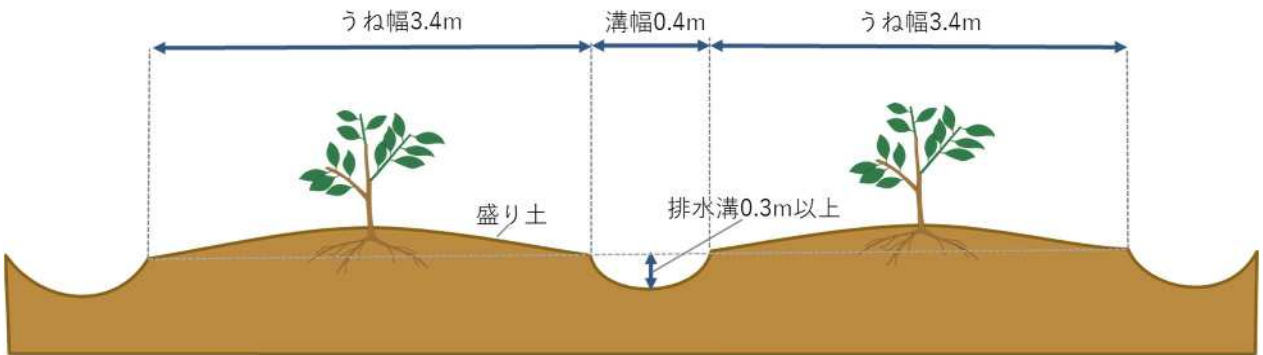
イ. 植え方

マルチ栽培に適した列植の園地改造を行います。早期に収量を確保したい場合は計画密植を行うこともできます。

① 高うねの場合



② 水はけの良い畑の場合



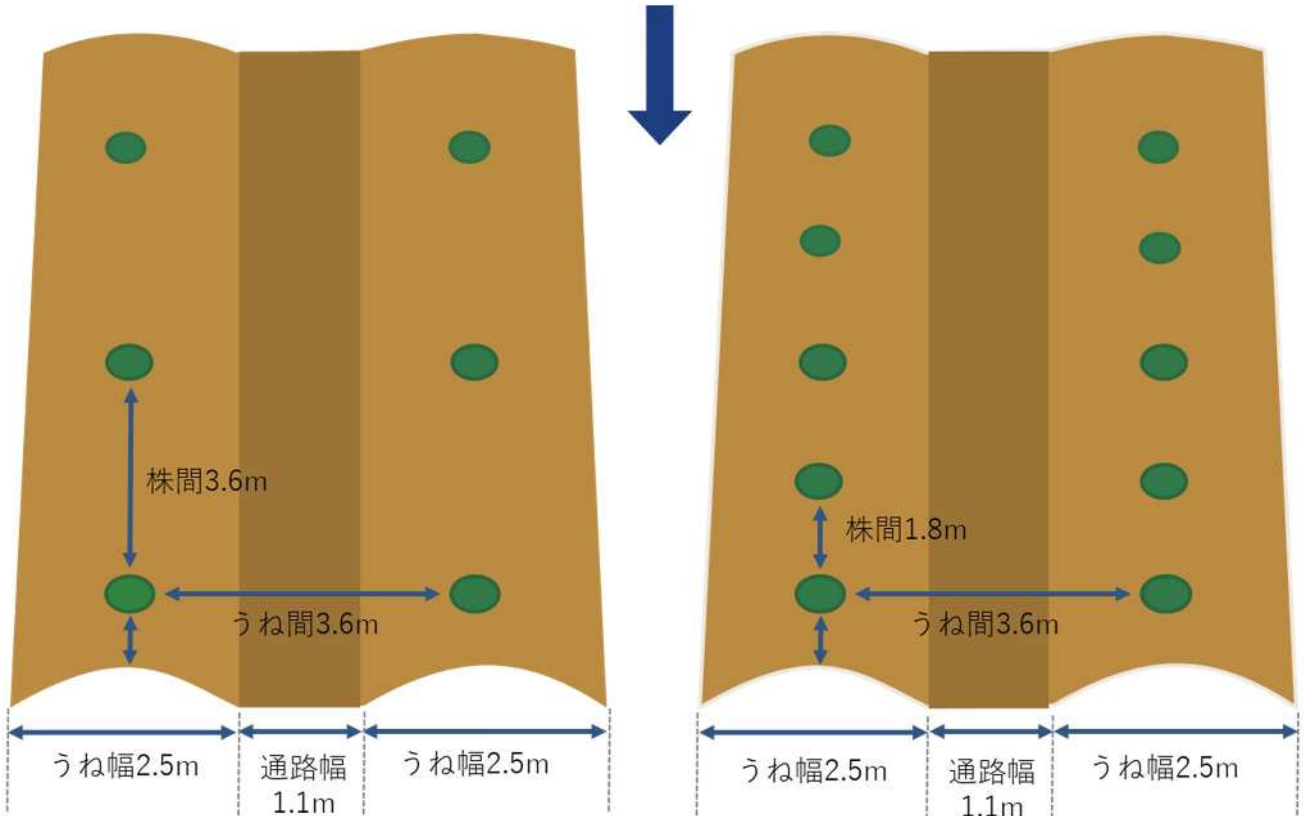
ウ. 植栽間隔と本数

畑の寸法に合わせて、列植え株間 3.6m × うね間 3.6m (70-75 本/10a) を基本とします。また、計画密植の場合は、株間 1.8m × うね間 3.6m (150 本/10a) とします。スピードスプレーヤを導入する場合は株間 3.0m × うね間 4.5m を目安としてください。排水性を考慮して、傾斜に沿ってうねの方向を決めます。

列植えの場合

傾斜の向き

計画密植の場合

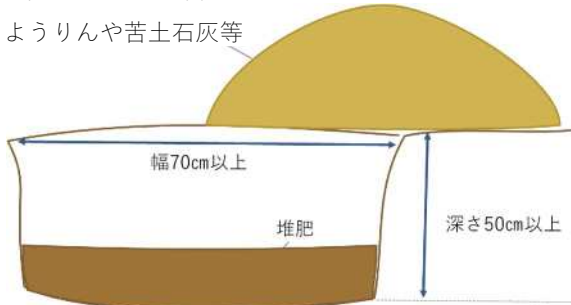


(4) 苗木の準備から定植

① 穴を掘る

深さ 50 cm、直径 70 cm の穴を掘ります。穴にたい肥等を入れ、肥料を掘った土に混ぜ込みます。

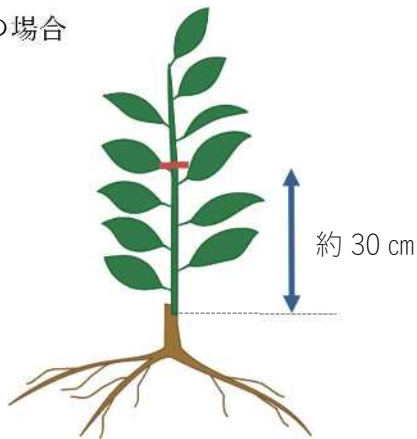
ようりんや苦土石灰等



② 苗木の枝を切り詰める

根が活着するまで葉からの水分蒸発を抑制して樹の消耗を防ぎます。主枝候補以外の細い枝を間引き、根から主枝候補の間の枝もすべて間引きます。また、長い枝も 30~50 cm 程度に切り詰めます。(1 年生苗の場合は接ぎ木部より 30 cm 上ほどで切り詰めます。)

・ 1 年生苗の場合



・ 2 年生苗の場合



③ 苗木の根を軽くほぐす

細根を多く残すように注意しながら、直根を根本から切ります。根が裂けている部分は切り戻します。

④ 植えつけ

掘り出した土の半分を穴に戻して山を作ります。苗木の根を広げて据え、その上から残りの土をかけて押さえて固定します。接ぎ木部分を埋めないように留意します。

⑤ 盛り土をする

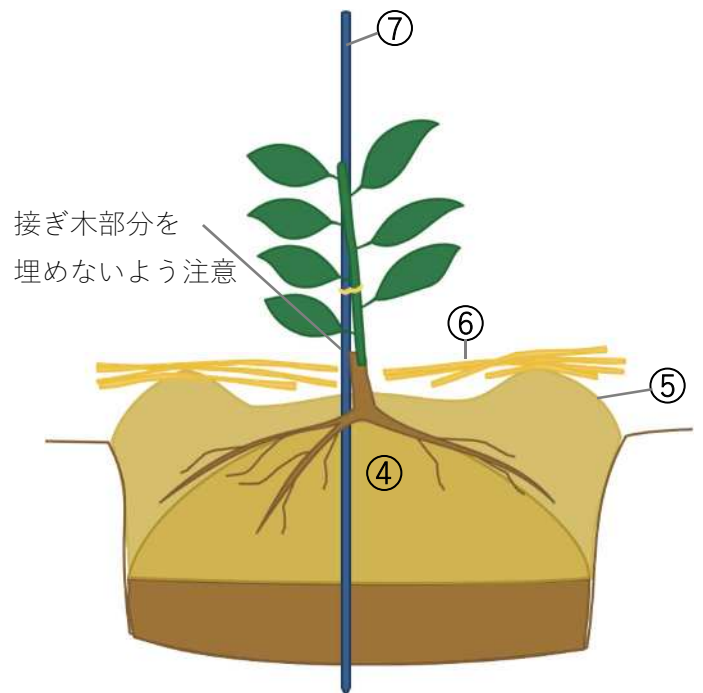
樹の周囲に盛り土をして水鉢を作ります。その後、たっぷりとかん水を行います。かん水後、支柱等で地面を突きしっかりと土と水をなじませます。

⑥ 乾燥対策

敷きワラや黒マルチなどでマルチすることで乾燥を防ぎます。

⑦ 支柱で固定

ひもを 8 の字にして支柱に固定します。



(5) 施肥とかん水

移植した年は根が活着する5月頃までは施肥を行わないようにします。その後は以下の表を参考に施肥を行ってください。肥効調節型肥料（LP やロング）の使用も可能ですが、それぞれの肥料の使用方法を読んで肥効を切らさないように注意してください。

例) 有機ペレット特1号（8-5-5）での施肥管理

樹齢	施肥時期	1樹当たり	
		1回あたり	年間施肥量(5回)
1年生	6月～10月	60g	300g
2年生	3～10月	120g	600g
3年生		180g	900g
4年生		240g	1200g
5年生		300g	1500g

苗木の株元には敷きわらを行い、土壌の乾燥を防ぎます

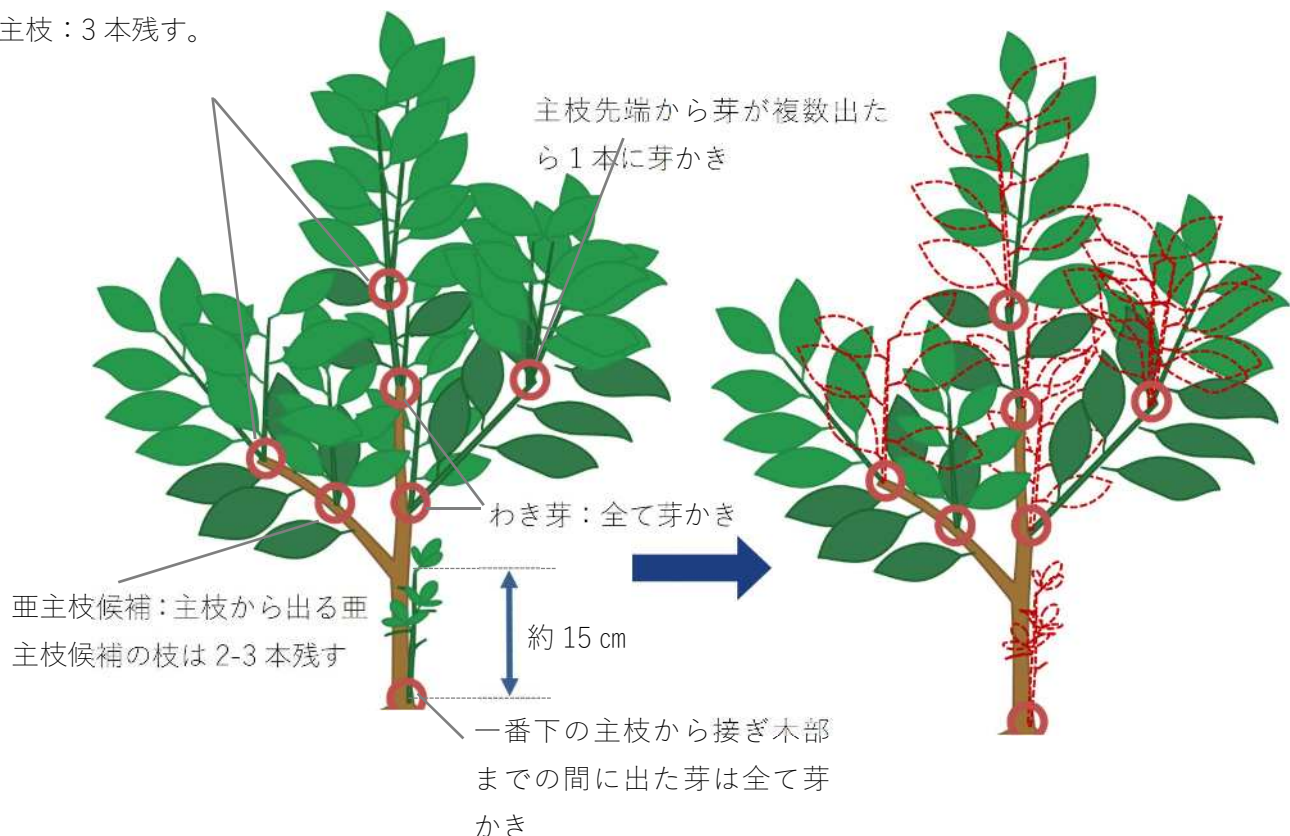
かん水は、梅雨明けから夏の暑さが弱まるころまで1週間に1度程度行い乾燥を防ぎます。雨が続いた場合はかん水は必要ありません。

(6) 芽かき

新梢の発生時に余分な芽を芽かきすることで必要な枝の充実を図ります。木が若いうちは台木からも芽が出るため見つけ次第芽かきします。主枝先端から芽が複数発生しますが枝の充実を図るために一本にします。わき芽は全て芽かきします。下の図を参考にしてください。

芽かきの例：3年生

主枝：3本残す。



(7) 苗木の防除

苗木の防除は、新葉や新梢を虫に食害されないことが重要となりこれにより早期に樹冠拡大を図ります。下の表を参考に防除してください。特にアブラムシとミカンハモグリガ（別名エカキムシ）、アゲハ、ゴマダラカミキリの食害に注意してください。農薬の使用時はラベルを読んで用法に従って使用してください。

散布時期	対象病害虫	商品名	使用時期、回数	希釈倍率
芽の長さ 1～2 cm時点	そうか病	ナティーボフロアブル	収穫前日、3回	1500倍
6月上旬	ハダニ類	トモノールS	夏季	150倍
	アブラムシ類、アゲハ類、ミカンハモグリガ、ゴマダラカミキリ成虫	モスピラン顆粒水溶剤	収穫14日前、3回	4000倍
6月中旬	アゲハ類、ミカンハモグリガ ゴマダラカミキリ	ダントツ水溶剤 ※1	苗木新梢発生前、3回	20倍
6月下旬～ 7月上旬	アゲハ類、ゴマダラカミキリ成虫、ミカンハモグリガ	リーズン顆粒水和剤	収穫21日前、1回	2000倍

対象病害虫の 発生時	アゲハ類、ハマキムシ類、ケムシ類	フェニックスフロアブル	収穫前日、2回	4000倍
	アブラムシ類、ミカンハモグリガ、ゴマダラカミキリ成虫	アクタラ顆粒水溶剤	収穫14日前、3回	3000倍
	ミカンハモグリガ、アゲハ類、ゴマダラカミキリ	ダントツ水溶剤	収穫前日、3回	2000倍
	ミカンハダニ	ダニエモンフロアブル	収穫7日前、1回	4000倍
	苗疫病	アリエッティ水和剤	収穫前日、3回	400倍

(2022年3月9日時点での登録内容)

※1：ダントツ水溶剤の20倍散布は苗木のみの登録です。薬剤は、樹幹部から地際部に十分量を散布してください。液が葉にかかると薬害が生じる恐れがあります。浸透移行性のため、効果が現れるまでに1週間程度かかり1か月程度効果は持続します。

(8) 着花・着果抑制

ジベレリン散布は、花芽を抑制し摘蕾・摘果作業を減らすと同時に樹冠拡大を促進します。

3-4年生になると、苗によっては結実しますが全摘果することで樹冠拡大を図ります。

1～2年生

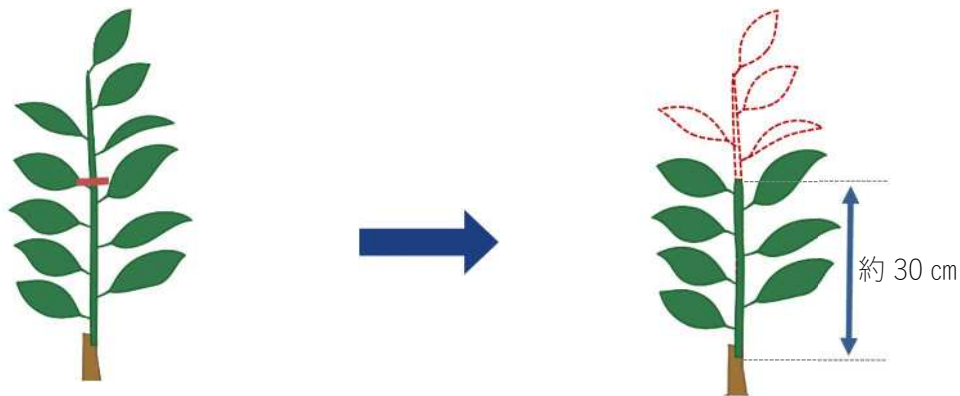
散布時期	商品名	効果	使用方法、回数	希釈倍率
12～3月	ジベレリン協和液剤	花芽抑制による 樹勢の維持	12～3月、1回 立木全面散布	25-50ppm

3～4年生

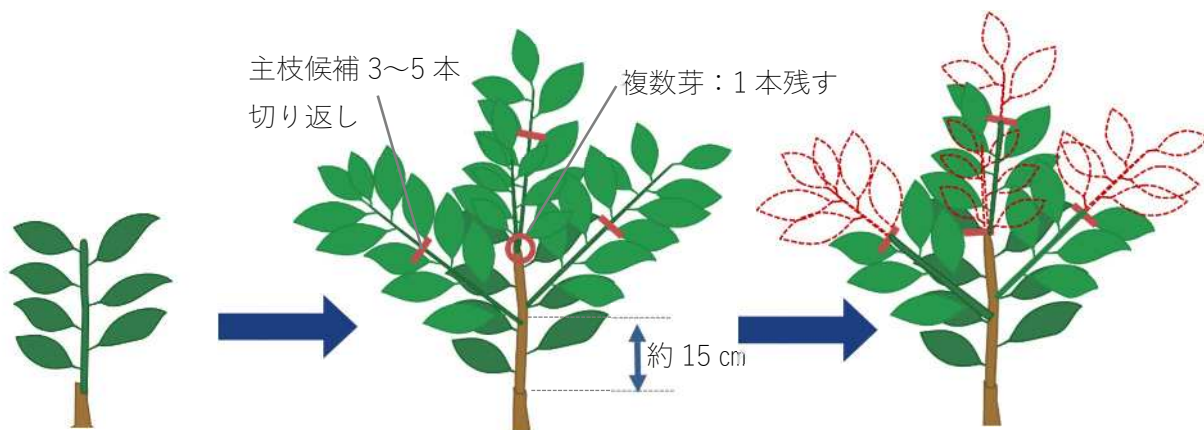
散布時期	商品名	効果	使用方法、回数	希釈倍率
12～3月	ジベレリン協和液剤	花芽抑制による 樹勢の維持	収穫後～3月、1回 立木全面散布	2.5ppm
	アタックオイル			60倍

(9) せん定方法

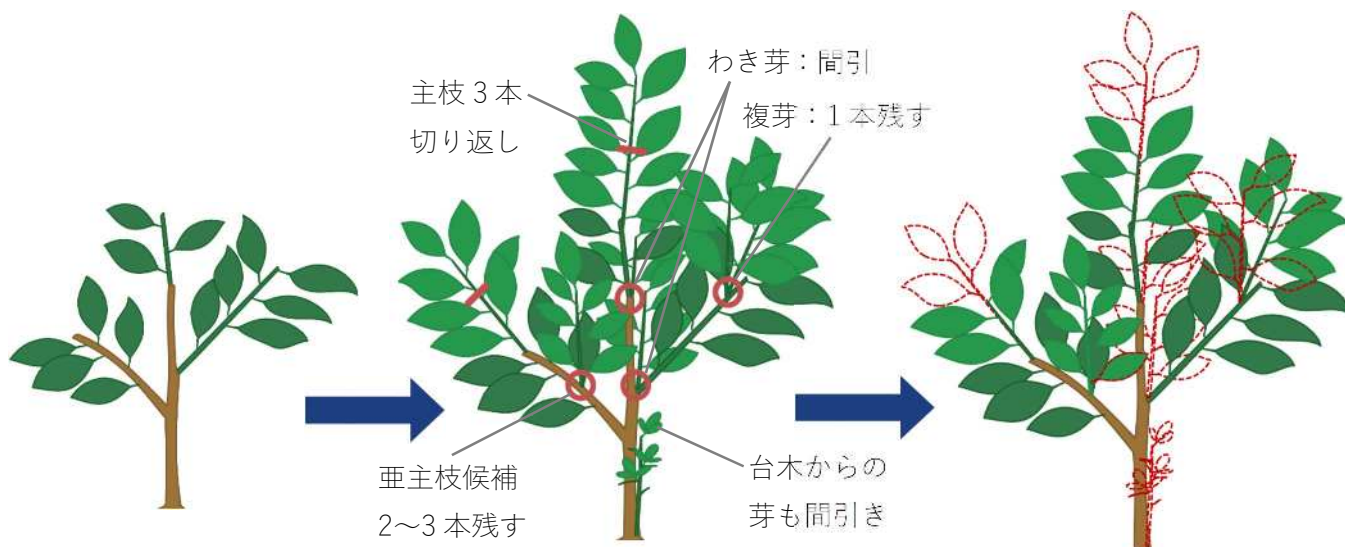
1年生：接ぎ木部から約 30 cm上の部分で切り返します。



2年生：互いに重ならない位置にある 3-5本の主枝候補を充実させます。 接ぎ木部から約 15 cm上の枝を第1主枝候補とします。第一主枝候補より下の枝はすべて除去します。主枝候補は樹皮に白筋の入った充実した箇所で切り返します。芽が複数出ている箇所は1本だけ残します。



3-4年生：主枝候補と競合する枝を間引くことで主枝候補の充実を図ります。各主枝の先端を決め、先端から強い芽が出るように切り返します。主枝候補から発生した春芽は2~3芽(先端の芽は含めない)残します。また、春芽から夏芽、秋芽が出た場合は1本だけ残します。この時期に支柱を立てて主枝を誘引すると、骨格がきれいに仕上がります。



5年目以降：主枝から発生した亜主枝候補の枝を2~3本決めます。主枝、亜主枝の先端を切り返すことで強い芽を吹かせます。